

戦中・戦後の駒澤大学

～掲示板から見る大学の姿～

会期：平成 27 年（2015）11 月 9 日（月）～平成 28 年（2016）3 月 31 日（木）

場所：駒澤大学禅文化歴史博物館 2 階 大学史展示室

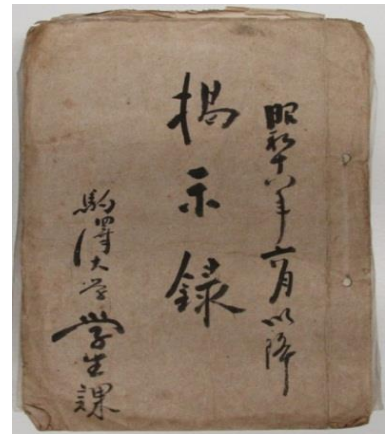
主幹：駒澤大学禅文化歴史博物館 大学史資料室

平成 27 年は第二次世界大戦終結から 70 年の節目にあたります。駒澤大学や学生たちが、戦中・戦後という激動の時代をどのように過ごしたのか、今回の展示ではご紹介していきます。

1、掲示録とは

掲示録とは駒澤大学の掲示板に貼られていた様々な掲示物を綴って冊子にした史料になります。掲示録に綴られている史料は、昭和 18 年(1943)から昭和 23 年（1948）までで、戦中・戦後の激動の時代における、学生たちの日常生活をうかがい知ることができます。

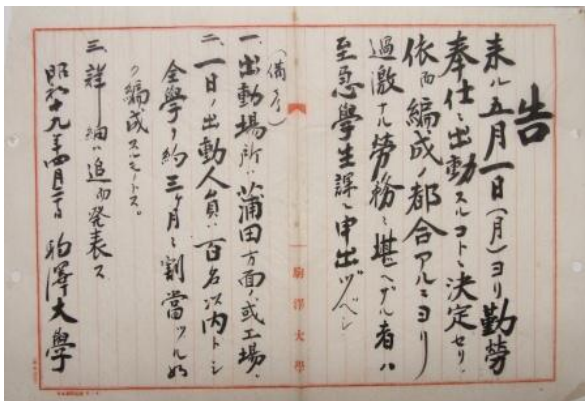
学生向けの掲示板は、昭和初期の地図によると大学正門から入って右側（現在の禅研究館の手前辺り）に設置されていました。



2、戦中の駒澤大学

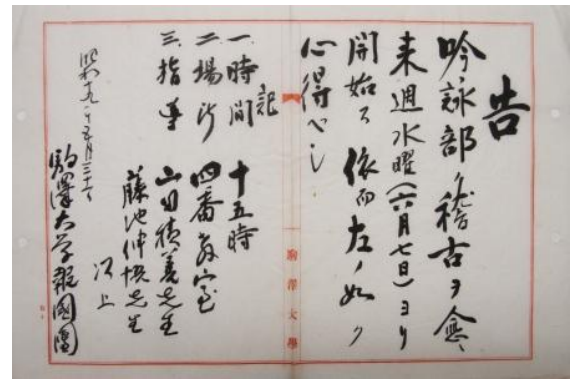
昭和 16 年（1941）8 月 8 日、文部省通牒にもとづき、同年 12 月 17 日に本部隊と特別警防団からなる報国隊が組織されます。同隊は、有事における国防と平時における軍事教練や勤労作業が目的でした。また、アメリカ・イギリスとの開戦が回避できない状況となり、同 16 年 9 月、文部省は兵力増強のため学生の修業年限の短縮・卒業期の繰り上げを命じます。同年 12 月 26 日、本学は翌年 3 月の卒業予定者に対して、繰り上げ卒業式を執行しました。

昭和 16 年 12 月 8 日、太平洋戦争が勃発すると、兵器不足が深刻となりました。昭和 18 年（1943）、政府は航空機 5 万機増産という目標を掲げ、軍需省を設置し、航空戦力の拡充に努力します。しかし、

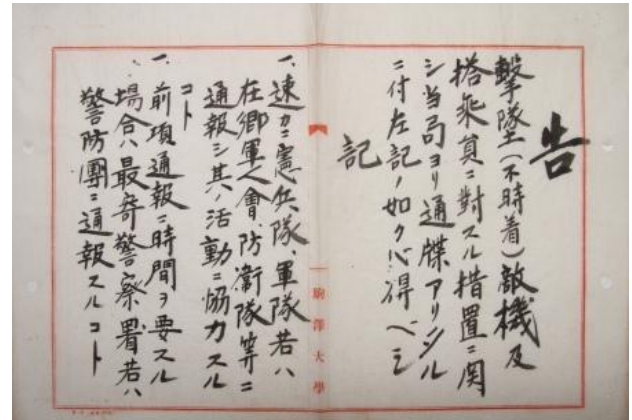
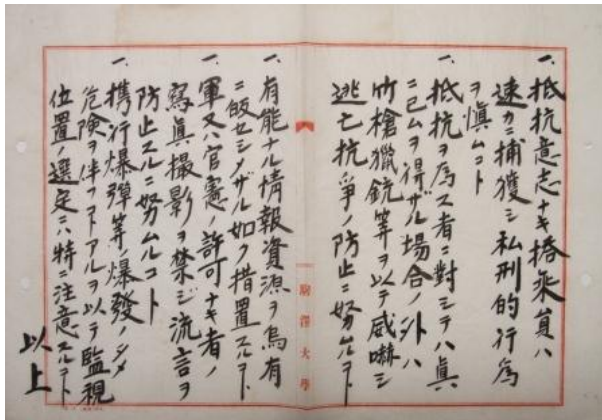


これまでに軍事工場の労働者層を兵力として動員していたため、深刻な労働力不足に陥っていました。そこで、学生たちを労働力として動員することになり、本学の学生も様々な軍需工場にて勤労作業を行なっています。さらに、戦況の悪化にともない兵力が激減すると、同 18 年 10 月 2 日、政府は全国学生の徴兵延期を廃止し、学業半ばの学生を戦地に送り込む学徒出陣を執行しました。

戦況が変化するにつれて、次第に学生たちの大学生活は軍事色の濃いものに変化していきました。しかし、部活動は継続されていたようで、昭和 18 年の段階では銃剣道部・射撃部・騎道部・角道部・児童教育部・芸能部などに大きく分けられて存在していました。同 19 年（1944）には吟詠部の活動が開始されており、戦時下であっても大学生活は続けられていました。



昭和 20 年（1945）に入ると、戦況の悪化にともない本土決戦が叫ばれるようになりました。同年 5 月 24 日・25 日には、東京全体に大規模な空襲が仕掛けられました。東京大空襲を凌ぐ激しさで、陸軍関係施設が並ぶ世田谷北部（松原周辺）を中心に空襲の被害を受けています。その状況を受けて、本学の学生課は、撃墜・不時着した敵機への対応について指示を出しています。



○駒澤大学の学徒勤労働員

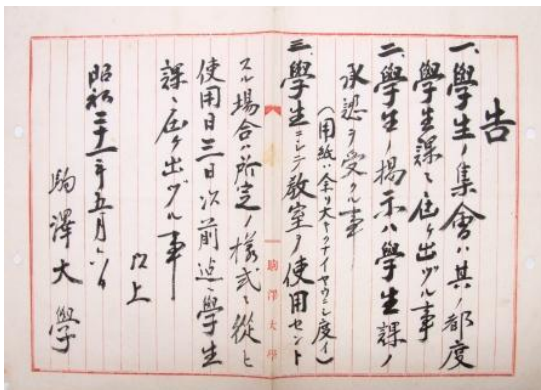
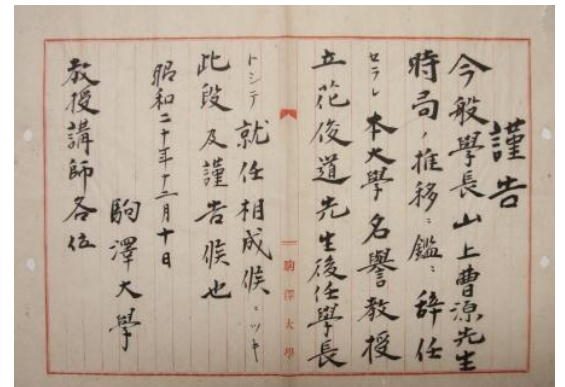
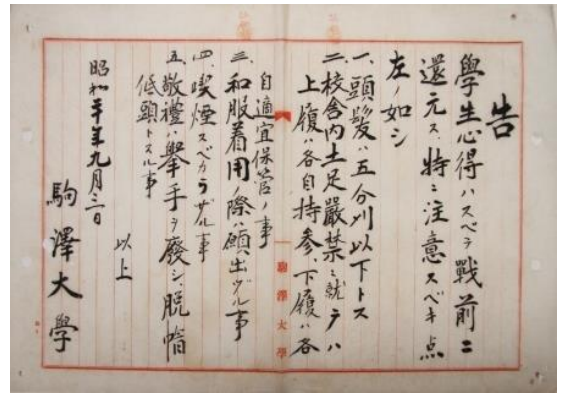
年代	期間	作業場所・会社名	現住所	対象学科・人数
昭和 18 年 (1943)	6 月 15 日～30 日	東京第二陸軍造兵廠多摩製造所	東京都稲城市	高等師範科、学部（東洋・仏教）、専門部仏教科、予科
	8 月 26 日～不明	不明	不明	学部 1・2 年
	10 月 1 日～10 日	株式会社宮地鉄工所	東京都江東区	歴史地理科 1 年（50 名）
	10 月 11 日～20 日	那須アルミニウム製造所	東京都葛飾区	専門部仏教 1 年（20 名）、 専門部国語漢文 1 年（42 名）
	10 月 21 日～31 日	三菱製鋼株式会社	東京都江東区	全学部（147 名）、 専門部仏教科（18 名）
昭和 19 年 (1944)	3 月 20 日～31 日	不明	不明	学部、専門部、予科
	5 月 1 日～7 月 31 日	北辰電気製作所	東京都大田区	歴史地理科 3 年、 専門部仏教科 2 年
	9 月 15 日～11 月 7 日	古河鑄造株式会社	川崎市幸区	学部
昭和 20 年 (1945)	1 月 25 日～（終戦）	中西航空工業株式会社	東京都三鷹市	学部各学年全員

3、戦後の駒澤大学

昭和 20 年 8 月、終戦を迎え、翌 9 月から授業が再開されましたが、当初はごく少数の学生しかいませんでした。しかし、徐々に復学する学生が増え、翌 21 年には 1,000 人を超える学生が大学に戻ってきました。

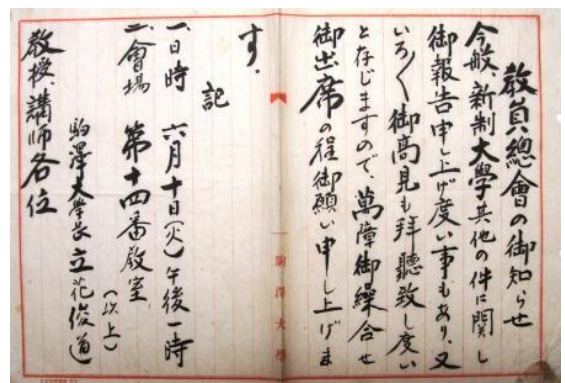
戦後の日本は、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の指導で、民主的な国家へと改革され復興を目指すことになりました。GHQ は、教育の機会均等を大きな目標に掲げ、男女共学など新たな学校制度を導入しました。さらに、大学は、昭和 24 年の「私立学校法」によって自由な発展への基礎が形作られていきました。

この時期の駒澤大学の学長は、戦争末期から終戦時という時期を担当した山上曹源学長が、昭和 20 年 12 月 10 日「時局ノ推移」を鑑みて辞任し、後任に立花俊道名誉教授が選ばれました。立花俊道は、昭和 12 年～16 年に学長を務めており、経験豊富なベテランに戦後の駒澤大学の運営が託されたのです。



昭和 21 年、復学してきた学生や新入生を迎え、学生数は 1,000 人を超え、大学に活気が戻ってきました。そのため、各学科への教室の割り当てや学級編成、学生集会や学生の教室利用の規則を定めるなど運営を行なっていきました。また、学生の増加に伴い、地方出身学生のための寄宿舎増設が急務となり、豪徳寺（現世田谷区）の錬成道場を寄宿舎として借用しました。

昭和 22 年 6 月 10 日、立花俊道学長は GHQ の教育改革を受けて「新制大学」に関する教員総会を開催します。そして、同年 11 月には新学制対策委員会が発足して、駒澤大学が「新制大学」へ移行する準備が整えられます。一方、立花俊道学長は、同年 10 月 22 日、「一身上ノ都合」により学長から退きます。新制大学へと動き始める中、旧制大学を支えた立花学長は一線から退き、新しい教授陣に新しい大学の運営を託したのです。



○掲示録に出てくる駒澤大学学長

- 山上曹源 (13 代)・・・在任期間：昭和 18 年 5 月～20 年 12 月
- 立花俊道 (14 代)・・・在任期間：昭和 20 年 12 月～22 年 10 月
- 岡田宜法 (15 代)・・・在任期間：昭和 22 年 10 月～昭和 28 年 6 月

戦中・戦後関連年表

年	月	日	出来事
1937 (昭和 12)	7	7	盧溝橋事件 (日中戦争)。
	8	24	国民精神総動員実施要綱、閣議決定。
1939 (昭和 14)	3	30	大学の軍事教練必修化。
1941 (昭和 16)	8	8	文部省、各学校に学校報国隊 (団) の編制を命令。
	10	16	大学・専門学校などの在学年限短縮。
	12	8	イギリス・アメリカに宣戦布告。
1943 (昭和 18)	6	25	学徒戦時動員体制確立要綱を閣議決定。
	10	2	在学徴集延期臨時特例公布 (「学徒出陣」)
	10	12	教育ニ関スル戦時非常措置方策を閣議決定。
	10	21	明治神宮外苑競技場で、出陣学徒壮行会を挙げる。
1944 (昭和 19)	8	23	学徒勤労令公布。
1945 (昭和 20)	3	18	決戦教育措置要綱を閣議決定。
	5	22	戦時教育令公布 (戦時に緊切な要務に挺身することなど)。
	8	15	政府、ポツダム宣言受諾を発表。
	9		駒澤大学で第二学期が開始される。
	12	18	駒澤大学学長山上曹源が辞任し、立花俊道が就任する。
1946 (昭和 21)	3	5	米国教育使節団来日。
	5	1	駒澤大学で新学期が開始される。
	5	15	駒澤大学で補欠の募集がおこなわれる。
	6	14	食料危機による夏休み繰り上げ、授業短縮など通達。
	9	29	駒澤大学で第六十三回卒業証書授与式を挙げる。
1947 (昭和 22)	3	8	駒澤大学で第六十三回卒業証書授与式を挙げる。
	3	31	教育基本法・学校教育法公布。
	5	3	日本国憲法施行。
	9	28	駒澤大学で第六十四回卒業証書授与式を挙げる。
	10	22	駒澤大学学長立花俊花が辞任し、岡田宜法が就任する。
1948 (昭和 23)	3	15	駒澤大学で第六十四回卒業証書授与式を挙げる。
	4	1	新制大学 12 校 (公立 1、私立 11) 発足。
1949 (昭和 24)	2	21	新制公私立大学 79 校設置認可。
	4	1	駒澤大学が新制大学に移行。

〈主要参考文献〉『駒澤大学八十年史』(1962)、『駒澤大学百二十年史』(2002)、

『学生たちの戦前・戦中・戦後』(全国大学史資料協議会東日本部会、2015)

(作成: 中村亮佑 本学大学院修士課程)

過去の資料収集には卒業生や旧教職員をはじめ、学校関係者のご協力が必要です。

大学の歴史や学生生活を知る事の出来る資料 (特に戦前のもの)、写真、記念品等がありましたら、どうぞご連絡ください。(駒澤大学禅文化歴史博物館: 03-3418-9613)